

## 令和6年度第1回草津市上下水道事業運営委員会 会議録

■日時：

令和6年10月18日（金）13時30分～15時30分

■場所：

草津市役所8階 大会議室

■出席委員：

伊関委員、久保田委員、柴田委員、田中委員、西谷委員、馬場委員、山口委員、山田委員

■欠席委員：

井戸田委員

■事務局：

**上下水道部**

奥山部長、西田副部長、島田副部長兼北山田浄水場長

**上下水道部上下水道総務課**

柴田課長、中西参事、中川係長、三浦副係長、小林主査

**上下水道部上下水道施設課**

間宮課長、三田村課長補佐

**上下水道部給排水課**

舟木課長

**上下水道部ロクハ浄水場**

西谷場長、榎本係長

**上下水道部北山田浄水場**

山本係長

**建設部河川課**

松尾課長、勇田副係長

■傍聴者：

なし

### 1. 開会

---

事務局より挨拶

### 2. 委員紹介、事務局職員紹介

---

今年度、初回の委員会のため、全委員の紹介。事務局職員紹介。

### 3. 議事

---

#### (1) 令和5年度水道事業会計の決算概要について

##### ○事務局

< 資料3（2～16ページ）および資料3別紙に基づき説明 >

##### ●委員

16ページの料金回収率が100%以上というのは、どういうことなのか。

##### ○事務局

100%を超えていれば、水を作るための費用などが、料金収入で賄えているという状況である。逆に100%を下回ってれば、料金収入で賄えていないという状況である。

草津市は100%を超えているため、健全な経営ができていると考えている。

##### ●委員

簡単に言うと、物を買った値段よりも売った値段の方が高いという意味である。

##### ●委員

6ページの減価償却費とはどういうものか説明いただきたい。

また、4ページの有収水量の推移の説明の中で、節水機器の普及により有収水量が減少しているという説明があったが、具体的にどのような機器があるのか教えてもらいたい。

##### ○事務局

まず減価償却費とは、例えば、浄水場の建物や機械などの資産について、毎年年数が経つに連れて古くなって価値が下がっていく分を費用計上しているもの。

次に節水機器とは、例えば、トイレについては、以前よりも少量の水で流せるようになってきている。このような節水機器が普及し、また機器自体の節水技術が高くなっていくと水道使用量が減少していく。また、節水機器の普及だけでなく、物価高騰などにより節水意識が高まると水道使用量が減少していく。

##### ●委員

現金を多く持たれており、比較的余裕があると思うが、どのような方針で現金を持たれているのか。

##### ○事務局

一部短期で定期預金による運用を行っているが、地震など万が一の災害時に備えて、最低限10億円程度の現金を保有している。

●委員

借金が多く残っている一方、現金を多く保有している中で、どのような方針で借金を返済しているのか、対外的に説明できるようにした方がいい。

○事務局

9ページのグラフのとおり、企業債残高については右肩下がりとなっている。支出と収入の状況を考慮し、企業債以外の財源確保をしっかりと行いながら、計画的に企業債の借入を行い、企業債の返済を行っている。

(2) 令和5年度下水道事業会計の決算概要について

○事務局

< 資料3 (17～29ページ) に基づき説明 >

●委員

29ページの独立採算について、下水道の決算状況が良いにも関わらず、66%とそれほど良くない数値であるのはなぜか？

○事務局

一般会計繰入金については、総務省の基準で定められた基準内繰入と、市が経営状況や事業の性質等を踏まえ、政策的に独自で定めている基準外繰入と2つの繰入がある。

決算については、下水道使用料だけでなく、一般会計からの繰入も含めたものとなっている。近年では、下水道事業の経営は徐々に安定してきており、下水道事業第9期経営計画策定時(令和元年度)においても、これまで基準外として繰入していたものをやめたり見直したりしている。

今後も、100%に近づけるよう、事業運営を行っていきたい。

●委員

29ページの「下水道の安定運営」に満足している市民の割合」について、令和5年度の実績値が40.4%で、令和9年度および15年度の目標値が令和5年度の実績値よりも低く設定してあるのはなぜか？

○事務局

この目標値は下水道事業第9期経営計画策定時(令和元年度)に設定したもので、今後、令和9年度の計画の中間見直しにおいて、目標値の設定を再度検討していきたいと考えている。

●委員

目標値をいつ設定したか資料に記載しておいた方がいい。

(3) 主な事業の内容について

○事務局

< 資料3 (30～35ページ) に基づき説明 >

●委員

桜ヶ丘は市内において不明水が多いのか？

○事務局

市内全域の中では多い箇所である。

令和5年度の調査内容とその結果としては、カメラ調査を2.2km、誤接合調査を253件行った。そのうち不明水が発見された本管の部分は67か所、誤接合部分は33か所という結果であった。

●委員

桜ヶ丘は民間の開発業者が住宅開発の際に、下水道も整備されたという記憶だが、そのときの整備が甘かったのか、もしくは老朽化が原因なのか？

○事務局

基本的には老朽化が原因である。

●委員

30ページについて、ロクハ浄水場旧館の浸水対策工事とは、大雨が降ったときに、浄水場の周りから敷地へ水が流れ込まないように工事をされたのか？

○事務局

大雨時に、周囲の水路から水が溢れ、30cmほどの浸水が見込まれるため、水が入らないよう設備の壁や開口部等を立ち上げたり、新館と旧館とをつなぐ共同溝のマンホールの蓋を防水タイプに取り替えたりなどを行った。

●委員

33ページについて、緊急輸送路というのは道路のことか？

○事務局

国道1号線や県道などの主要道路のことである。

災害時に物資の輸送等を行う際、下水道管が地震で壊れ道路が陥没したりすると、大きな影響が及ぶため、優先的に地震対策を行う重要度の高い道路の下水道管として位置付けている。

●委員

33ページの書き方だと、緊急輸送路や復旧困難箇所から耐震化対策を実施すると記載されており、下水道管ではなく道路の耐震化対策をするようなニュアンスでとらえてしまうため、記載内容を修正した方がいいと思う。

(4) 脱炭素先行地域への応募結果について

○事務局

< 資料4に基づき説明 >

5. 閉会

---

事務局より挨拶

以 上